

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 70

Gerald Wilson 【ジェラルド・ウィルソン】

～トランペッター、バンドリーダー、アレンジャーとしても活躍～

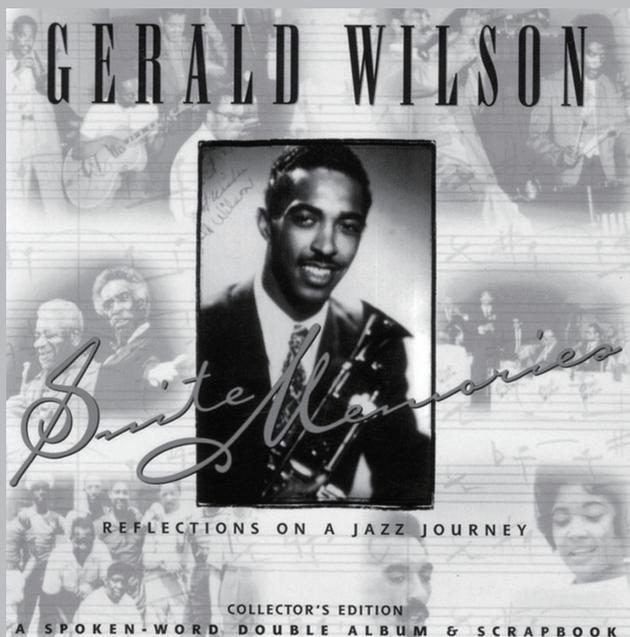


Photo : Gerald Wilson "Suite Memories: Reflections..." (Mama Foundation)

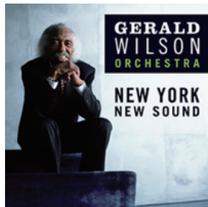
Profile

1918年9月4日、米国ミシシッピ州シェルビー生まれ。本名はGerald Stanley Wilson。16歳の時にデトロイトに移り、キャス・テクニカル・ハイスクールを卒業。39年にジミー・ランスフォード楽団に参加。「ハイ・スプーク」や「ヤード・ドッグ・マズルカ」等の曲を楽団に提供。レス・ハイトなどの楽団を経て、44年に自己のバンドを結成。第二次世界大戦中、クラーク・テリー、ウィリー・スミス等と共にアメリカ海軍で短期間演奏する。48年にはカウント・ベイシーらと共演。52年に再度自己のバンドを結成。トランペッター、バンドリーダーであるだけでなく、デューク・エリントン、レイ・チャールズ、エラ・フィッツジェラルド、ビリー・ホリデイ等の編曲を手掛けた。60年にLAを拠点としたバンドを結成し、バシフィック・ジャズ・レーベルでレコーディングを行う。その後、長年ディスカバリーとMAMAのレーベルでバンドを率いてレコーディングを行う。73年からロサンゼルス局のFM局でディスク・ジョッキーとしても活躍。90年に国立芸術基金よりNEAジャズマスターに指名される。98年にはウ蒙特レー・ジャズ・フェスティバルからオリジナル楽曲の依頼を受け、「モントレーのテーマ」を作曲。その後、カーネギー・ホール・ジャズ・バンド、リンカーン・センター・ジャズ・オーケストラと共演する他、ヨーロッパのラジオ・ジャズ・オーケストラ等で客演指揮者として特別出演を果たす。また、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校とカリフォルニア大学ロサンゼルス校の教員を務めた。晩年はマック・アヴェニュー・レコードからアルバムをリリース。2014年9月8日、96歳の誕生日を迎えた4日後、米国カリフォルニア州ロサンゼルス市の自宅で息を引き取った。享年96歳。

GW's Great Album

生涯 20 作以上のリーダー・アルバムを発表し、そのうち 7 枚のリーダー・アルバムがグラミー賞にノミネートされた。サイドマンとしても見事な好演を聴かせてきている。

自身のオーケストラ名義のアルバム



ニュー・ヨーク、ニュー・サウンド
ジェラルド・ウィルソン・オーケストラ
(Mack Avenue Records : MAC-1009)

ジェラルド・ウィルソン (arr, cond)、クラーク・テリー (tp, flh)、ジェシー・デイヴィス (as)、フランク・ウェス (ts)、他

1. マイルストーンズ 2. ブルース・フォー・ザ・カウント 3. エクイノックス 4. ヴィヴァ・ティラード 5. テリ (他、全 10 曲)

ロサンゼルスとニューヨークのバンドを指揮したジェラルドの快作

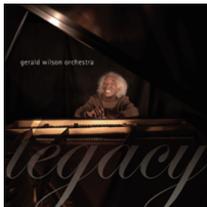


デトロイト
ジェラルド・ウィルソン・オーケストラ
(Mack Avenue Records : MAC-1049)

ジェラルド・ウィルソン (arr, cond)、ウィンストン・バード、ロン・パロウズ (tp)、カマシ・ワシントン (sax)、他

1. ブルース・フォー・ベル・アイル 2. キャス・テック 3. デトロイト 4. ミス・グレッツェン 5. ピフオー・モータウン (他、全 8 曲)

グラミー賞にノミネートされたジェラルド晩年のオーケストラ作品



レガシー
ジェラルド・ウィルソン・オーケストラ
(Mack Avenue Records : MAC-1056)

ジェラルド・ウィルソン (arr, cond)、シーン・ジョーンズ (tp, flh)、アントニオ・ハート (as)、カマシ・ワシントン (ts)、他

1. ヴァリエーション・オン・ア・テーマ・バイ・イゴリ・ストラヴィンスキー 2. ヴァーゴ (他、全 6 曲)

2003 年にマック・アヴェニューから発表されたグラミー賞ノミネート作品。ジェラルドがアレンジ&コンダクターを務め、クラーク・テリー、ジェシー・デイヴィス、ジミー・ヒース、ケニー・パロン等、錚々たる顔ぶれが一堂に会したジェラルド・ウィルソン・オーケストラ名義の作品。マイルス・デイヴィス作「マイルストーンズ」、ジョン・コルトレン作「エクイノックス」、ジェラルドのオリジナル「モントレーのテーマ」等、10 曲を収録。

2009 年にマック・アヴェニューから発表されたジェラルド・ウィルソン・オーケストラ名義の作品。ジェラルドがアレンジ&コンダクターを務め、総勢 20 名からなるロサンゼルス・バンドによる 6 曲、総勢 19 名からなるニューヨーク・バンドによる 2 曲を収録。カマシ・ワシントンの他、スペシャル・ゲストとして息子のアンソニー・ウィルソンも参加。タイトル曲の「デトロイト」や「ミス・グレッツェン」「ピフオー・モータウン」等、8 曲を披露。

2011 年にマック・アヴェニューから発表されたジェラルドにとって最後となったグラミー賞ノミネート作品。ジャケットに写るピアノ越しに満面の笑みを浮かべるジェラルドの姿も印象的。2 曲目に収録の「ヴァーゴ」は、ジェラルドの息子アンソニー・ウィルソンのオリジナル。7 曲に渡るメドレーを披露しているラストを飾る「イエス・シカゴ・イズ..」は圧巻。総勢 18 名による壮大なサウンドとジェラルドのアレンジもお見事。

リロイ・ヴィネガーとの縁

ジェラルドは 1957 年に録音された本誌縁のベースマン、リロイ・ヴィネガーの初リーダーアルバム『リロイ・ウォークス!』にトランペッターとして参加し、いぶし銀の名演を披露している。1960 年にはジェラルド・ウィルソン・オーケストラ名義でリリースしたアルバム『ポートレイト』にリロイ・ヴィネガーが参加し、お互いのリーダーアルバムで共演を果たしている。その他、ベースマンとの共演アルバムとして、レッド・カルンダーの『ザ・ロウエスト』、カーティス・カウンスの『カールズ・ブルース』、『ソノリタ』にもトランペッターとして参加している。

アンソニー・ウィルソン

ジェラルドの息子アンソニー・ウィルソン (1968 年生まれ) はダイアナ・クラールのレギュラー・メンバーとしても知られ、バンド・リーダーとしても活躍している人気ジャズ・ギタリストだ。ウェス・モンゴメリー、ライ・クーダー、T・ボーン・ウォーカー等に影響を受け、1997 年に発表した記念すべきファースト・アルバム『アンソニー・ウィルソン』は、グラミー賞にノミネートされた。ジャズ・シーン以外にも、ポール・マッカートニー、ウィリー・ネルソン、レオン・ラッセル、アーロン・ネヴィル等、数多くの大物アーティストのアルバムにも参加している。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.43

~ Salt Peanuts [ソルト・ピーナッツ] ~

この曲は 1942 年にディジー・ガレスピーによって作曲されたピ・パップナンバーで、ジャズ・ドラマーのケニー・クラークとのコラボとしてクレジットされている。中でも、1953 年 5 月 15 日にカナダ・トロントにあるマッセイ・ホールにディジー・ガレスピー、チャーリー・パーカー、バド・パウエル、チャールズ・ミンガス、マックス・ローチという 5 人の巨人が一堂に会した歴史的コンサートの実況録音盤『ジャズ・アット・マッセイ・ホール』での演奏は有名。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ディジー・ガレスピー 『ブルーヴィン・ハイ』
- チャーリー・パーカー 『ジャズ・アット・マッセイ・ホール』
- マイルス・デイヴィス 『ステイミン』
- ザ・ポインター・シスターズ 『ライヴ・アット・ジ・オペラ・ハウス』
- ジョシュア・レッドマン 『ジョシュア・レッドマン』